

農業・農村を取り巻く環境は、人口減少・高齢化社会やグローバル化の進展、ICT・AI等デジタル技術の普及など、大きく変化しています。加えて令和2年度は、新型コロナウイルス感染症という新たな課題に対応するため、様々な取組を模索した年でありました。

県では、5年間にわたり、「とちぎ農業“進化”躍動プラン」に基づき、本県農業の成長産業化を進めるための施策を推進して参りました。次代を担う農業人材の確保をはじめ、収益力の高い園芸生産の拡大による「園芸大国とちぎ」を実現するため、いちごやトマトなどの施設園芸の高度化に加え、新たな主力品目の普及推進や、水田を活かした土地利用型園芸の拡大等に取り組みました。

普及事業では、上記プランの実現に向け、普及指導員が非接触型のツールも活用しながら直接農業者に接し、関係機関等と連携して地域において多様な活動を展開してきました。

本書では、県内各地域で取り組んでいる普及指導活動の代表事例を紹介しております。地域ごとに実情が異なるため、新規就農者の確保・育成や、新技術の導入による産地振興など、同じ目的に向かいつつも、プロセスや成果は様々です。これらを御覧いただき、栃木県の農業を支える普及指導員の活動の一端を御理解いただければ幸いです。

結びに、本県普及事業の推進に御協力いただいた関係者並びに関係機関の皆様へ感謝申し上げます。

令和3(2021)年3月

栃木県農政部経営技術課長 天谷 正行